



陶器のファンシーグッズを作る会社に転職した後、15年働いて独立。40歳の時、春日井市にある住まいの中に、工房兼デザイン事務所を立ち上げます。独立して初めての作品は、「家庭で気軽に使ってもらえるもの」とデザインした、オズの魔法使いの絵柄の磁器の食器でした。

これまでに、ぬいぐるみや食器、ポストカードなどの雑貨だけでなく服や靴、絵本、ジュエリーなど、1万5000



「気軽に使ってもらえるものを」の思いで、述べ1万5000点以上のデザインを制作



KANTO TOKUSHU

# Shinzi Katoh Design

好きなことを見つけよう!

世界的に活躍するデザイナーであるシンジ・カトウさんは、20代から春日井市坂下町に工房と住まいを構えています。その多岐にわたるデザインは、多くの人を和ませてきました。



「デザインとは、スピードに乗って流れる雲をつかむようなもの」と表現するシンジ・カトウさん。時代と共に移り変わるトレンドを把握し、顧客のニーズに添えてきました。

「例えば、フランス料理店からお皿のデザインをオーダーされたら、その店に似合いい、料理がおいしく見えるように考えます。仕事に対する基準は、自分が楽しくやれるかやれないか。そして、自分が欲しいと思えるものかどうかです。」

現代を生きる子どもたちへ、「僕は、100人いたら100種類の個性があつていいと思う」とメッセージを送



100通りの個性があつていい! 楽しく取り組めることを見つけよう

「自由な子どもの考え方をもち続けたい」とこやかに話すシンジ・カトウさん。そのデザインは、これからも多くの人の心を惹きつけ、寄り添い続けるでしょう。

「デザインとは、スピードに乗って流れる雲をつかむようなもの」と表現するシンジ・カトウさん。時代と共に移り変わるトレンドを把握し、顧客のニーズに添えてきました。

「例えば、フランス料理店からお皿のデザインをオーダーされたら、その店に似合いい、料理がおいしく見えるように考えます。仕事に対する基準は、自分が楽しくやれるかやれないか。そして、自分が欲しいと思えるものかどうかです。」

現代を生きる子どもたちへ、「僕は、100人いたら100種類の個性があつていいと思う」とメッセージを送



幼少期に志した最先端の職業デザイナーとして早くから活躍

自然豊かな熊本県で生まれ育ったシンジ・カトウさん。デザイナーを志したのには、小学生の頃でした。

「油絵などが好きだった父から、『将来は商業デザイナーにならないか』と言われるんです。当時の最先端で、小学校の先生も知らなかった職業。『やりたい!』と返事をしたのですが、すぐに後悔しました」と苦笑いします。

「その日から毎日、絵を描いたり文章を書いたり……。父によるレッスンが始まったのです。」

地球環境をテーマにした『そらべあ』や、グリム童話を楽しくアレンジした『あかずきんちゃん』をはじめ、絵本の作品も多いシンジ・カトウさん。絵も文も自分で仕上げられるスタイルは、幼い頃のレッスンが原点になりました。

「少年期になると、父に反目する気持ちがわきました。親元を離れ愛知県へ。高校へ行ったり、デザインの学校へ行ったりしましたが、将来何をしたいのか迷っていました。」

「その後は、瀬戸市にある貿易関係の商社にデザイナーとして入社します。」

「当時の瀬戸市は窯業が隆盛で、陶磁器に関わる会社が数多く集まっていました。陶磁器を焼く窯元や型を作る会社なども多く、海外からのバイヤーが行き交い、街は活況。当時、各地から瀬戸に集まった職人たちの技術は、世界一だったのではないかと思います。」

昭和40年代は、瀬戸市で輸出向けの洋食器やノベルティの製作が盛んでした。シンジ・カトウさんも主にヨーロッパ向けのデザインを担当。クッキージャーをはじめとする容器や貯金箱など、数多くの立体陶器を海外に送り出しました。

## Shinzi Katoh® シンジ・カトウさん

雑貨デザイナー・絵本作家。雑貨や靴、絵本、ジュエリーなど様々なプロダクト・デザインを国内外に送り出す。有名キャラクターとのコラボレーション作品も多数。近年では2018年、休暇村『旅する絵本』&ピンズコレクションを制作。2019年、絵本『あかずきんちゃん』が初の舞台化。2020年秋には新作絵本『絶滅危惧種 ずっとなかよくしたいな』が発売予定。https://www.shinzikatoh.com

